

令和5年6月8日

3年生保護者様

上郡町立上郡中学校
校長 溝端 義和

車中泊で3泊4日となった修学旅行の報告

先週実施しました修学旅行が大雨の影響で帰校途上の新幹線が運休となり、車中泊となった経緯と状況について報告いたします。

- ・ 台風の影響により3日とも雨の心配があったが、2日目までは好天に恵まれて予定通りの行程をこなす。
- ・ 3日目は朝から雨であったが、風がやや強いものの強い降りではなく、またバス移動での施設見学であったため、活動に大きな影響なく行程をこなし、東京駅に到着。
- ・ 東京駅を定刻14時3分に出発。駅構内での遅延情報連絡はなし。
- ・ ネットで天気を確認。東海地方に濃い雨雲。東海地方を通過している新幹線の遅延情報も確認。乗車している新幹線も徐行運転により遅れると予想。
- ・ 14時45頃、本来停車しない静岡県三島駅で停車。愛知県での豪雨により、豊橋―三河安城間が通行できない状態になり、運行中の新幹線が順次、駅付近で停車することになった。
- ・ しばらくして、「愛知県（豊橋付近）での1時間の降水量と24時間の降水量が規定値を上回っているため運行できない状態である」と車内放送。24時間の降水量が規定値を上回っているということは、雨が降り続いている現状では運行再開にはかなり時間がかかると予想。生徒たちはカードゲーム等をしながら過ごしていた。
- ・ 2時間以上過ぎた5時過ぎ、「この新幹線の運行は新大阪駅まで（岡山行きであったが）とします」と車内放送。添乗員と相談し、相生駅まで迎えに来てもらう予定だったバスに新大阪駅までの迎えを依頼。
- ・ 添乗員が、三島にある旅行社支店と連絡を取り、おにぎりとお茶を手配。19時半頃、車内に運び込み、配布。
- ・ 19時半過ぎ、「本日の運行は中止します」と車内放送。生徒に、体操服に着替えてよいと指示。
- ・ 20時過ぎ、「この新幹線は一端車庫に入り、三島駅発東京行きの新幹線になります。6号車前方の橋桁を通り、隣の新幹線に移ってホームに降りてください」と車内放送（乗車している新幹線はホームから2本目の線路上で停車していた）。
- ・ 一カ所しかない通路を渡すのは危険であるとともに時間がかかると判断し、乗車したままにしてほしいと乗務員に交渉→許可。
- ・ 三島駅を22時過ぎに出発。各駅停車のため、東京駅には23時半前に到着。
- ・ 男女で車両を分け、寝るよう指示。
- ・ 新幹線の開放が朝5時までとなっていたため、5時前に起こして駅構内に移動。
- ・ 添乗員と新幹線の運行予定を確認し、第二便（第一便はのぞみ）の7時3分発岡山行きの新幹線自由席（指定席は空きなし）に乗車することを第一案とし、保険として12時3分発岡

山行きの新幹線の指定席を押さえる。

- ・ 5時半過ぎ、12時までの運休が決定。新幹線の開放が8時まで延長となったため、生徒をすぐに元の座席に戻して休ませる。
- ・ 教員と旅行社（東京支店）が確保したおにぎりとお茶を配布。
- ・ 8時に新幹線を降り、旅行社が押さえたビル内にある研修室に移動。そこで生徒はカードゲーム等をして過ごす。
- ・ 10時半、研修室で解散式（相生駅での解散式をカットして早く学校へ帰るため）。
- ・ 11時に研修室を出て新幹線ホームに移動。乗車前にお弁当を配布。
- ・ ホームはものすごい人だったが、指定席が取れているためスムーズに乗車。
- ・ 乗車後、出発までにお弁当を食べる。
- ・ 12時8分、5分遅れで東京駅を出発。
- ・ 指定席車両であったが、多数の乗客のため、指定席車両通路にも乗客が入っている状態（車内放送で許可）。ほとんどの生徒が寝て過ごす。
- ・ 多数の乗客が乗り降りするため、名古屋駅到着時点で50分遅れ。
- ・ 相生駅には45分遅れの16時半に到着し、すぐにバス乗車して帰校。

私のみならず、どの教員も経験したことがない緊急事態でしたが、教員も生徒も落ち着いて行動し、全員無事に帰ってくることができました。

以下は、私が見た生徒の様子と感想です。

誰も不平を言うことなく、3泊4日になったことを貴重な経験と前向きに捉え、楽しむところはみんなで楽しみ、話を聞くところはみんな静かに聞き、学年全体でけじめがしっかりつけられていました。

話をしっかり聞く姿勢がつけられていることは、緊急時には大変重要なことです。生徒たちが落ち着いていたことが大きな事案が起らなかった一番の要因だと思います。

停車中の新幹線内でも、東京駅に戻ることにした新幹線内でも、昼まで待つことになった研修室内でも、男女分け隔てなくみんなでゲームをして楽しんでいました。

「みんなで」というのがこの修学旅行のスローガンでしたが、緊急時でもそのことを意識し、不安を表に出さず、みんなで楽しく過ごそうとしている生徒たちは本当にたくましかったです。

また、そんな中でも、疲れている子への気遣いもしており、本当に優しい生徒たちでした。

食事も睡眠も十分ではない生活でしたが、文句を言わずに我慢しており、本当に強い子たちでした。解散式では涙が出そうになりました。

この学年集団は、これからさらに高いレベルの集団になると確信しました。

保護者の皆様には本当にご心配をおかけしました。状況はできる限り学校に連絡し、メールで配信しましたが、各家庭では心安まらない状態が続いていたと思います。

本校教職員で今回の緊急時対応を共有し、今後の教育活動に生かしていきます。今後とも本校の教育活動にご理解、ご支援をいただけますようお願いいたします。

旅行後、複数の保護者様より直接あるいはお手紙で感謝の言葉をいただきましたこと、ここでお礼申し上げます。